資 料 3

気仙沼市震災遺構（旧気仙沼向洋高校）保存整備に係る調査

「公開活用計画」検討資料

平成 26 年 11 月 19 日

株式会社 丹青社

1．気仙沼市の復興の取り組みにおいて<旧気仙沼向洋高校>に期待されるもの

※特に深く関連する箇所に着色。
※関連の可能性が高いと想定される箇所に下線。

気仙沼市で検討・推進される復興の取り組みにおいて、震災遺構として位置づけられる<旧気仙沼向洋高校>に期待されるものを整理します。
<旧気仙沼向洋高校>の公開活用にあたっては、俯瞰的な視点に立ち、気仙沼市全体での復興の取り組みが相乗的に活性化されることを重視し、検討を行います。

［気仙沼市の復興の方針 ―気仙沼市震災復興計画―］

基本理念

- ○史上最大の犠牲者**「二度と繰り返さないこの悲劇」**
- ○自然に対する畏怖、畏敬の念**「自然と調和する都市構造と市民生活」**
- ○人々の経済的困窮**「市民の経済的安定と産業の再生」**
- ○産業基盤の壊滅的打撃**「生産性向上、構造改革の契機」**
- ○人々の優しさ、頑張り**「家族愛、他者への愛、郷土愛、愛の溢れるまちづくり」**

復興の目標

- ○**津波死ゼロのまちづくり**
- ○**職住復活と生活復興**
- ○**スローでスマートなまちとくらし**
- ○**早期の産業復活と雇用の確保**
- ○**持続発展可能な産業の再構築**
- ○**地域に笑顔溢れるまちづくり**

計画の柱と方向性

市土基盤の整備
①市の土地利用方針の策定
②地盤沈下による冠水地域の復興
③交通網の整備
④海岸・河川施設の整備
⑤安全な居住環境の整備
⑥下水道の整備
⑦水道・ガスの整備

防災体制の整備
①地域防災計画の見直し
②津波対策の推進と防災体制の整備
③消防体制の整備
④防災学習の充実

産業再生と雇用創出
①持続可能な農林業の再生
②日本一活気溢れる水産都市の実現
③まちづくりを牽引する商工業の推進
④地域資源の魅力を生かした観光の展開
⑤新たな産業の誘致と創出
⑥雇用創出と人材育成

保健･医療･福祉･介護の充実
①被災福祉施設の復旧と体制整備
②地域医療の再生と体制整備
③保健･医療･福祉･介護の連携強化
④被災者の生活支援

学びと子どもを育む環境の整備
①学校･社会教育施設の復旧と整備
②学校教育環境の整備
③文化財の復元と文化施設の復旧
④大学・研究機関等との連携の誘致

自然環境の復元・保全と環境未来都市(スマートシティ)の実現
①災害による廃棄物の迅速処理
②自然環境・景観の復元と保全
③再生可能エネルギーの導入と環境未来都市（スマートシティ）の実現

地域コミュニティの充実と市民等との協働の推進
①コミュニティ基盤の整備
②新しいコミュニティの形成支援
③市民等との協働の推進

［階上地区における将来ビジョン ―階上地区まちづくり計画提言書―］

まちづくり大綱	施策提言
○基盤整備･防災 -災害に強い街-	○「観光×環境×健康」推進モデル地区宣言
○健康･福祉･環境-多世代･自然共生の街-	○「はしかみセントラルパーク(仮称)」構想（気仙沼向洋高校跡地利用）
○教育-地域一貫教育の街-	○「はしかみの職と食」を結びつける六次産業化
○産業-自然の恵みを享受する街-	○「住む･育てる･守る」ための地域福祉と基盤整備

［震災伝承のあり方 ―気仙沼市東日本大震災伝承検討会議報告書―］

震災伝承の意義

- ○**追悼と鎮魂・犠牲を繰り返さない誓い**
- ○**災害に強いまちづくり・将来世代への伝承**
- ○**沿岸部に暮らす全国・全世界の人々への伝え**

伝えるものと手法

- ○追悼・鎮魂［祈念(記念)公園、モニュメント/祈念(記念)碑、鎮魂碑、慰霊塔、祈りの広場］
- ○震災の記憶［被災構造物/被災遺物、写真、映像、証言/記録集、写真集/学術、研究］
- ○震災の教訓［被災構造物/被災遺物、写真、映像/まちづくり/避難計画/避難訓練/疑似体験/教育プログラム/言い伝え/芸能/祈念(記念)公園、モニュメント/祈念(祈念)碑、鎮魂碑、慰霊塔、祈りの広場］
- ○復興の状況［被災遺物、写真、映像/記録集、写真集/教育プログラム/イベント］

［気仙沼市における震災伝承に関連する施設等］

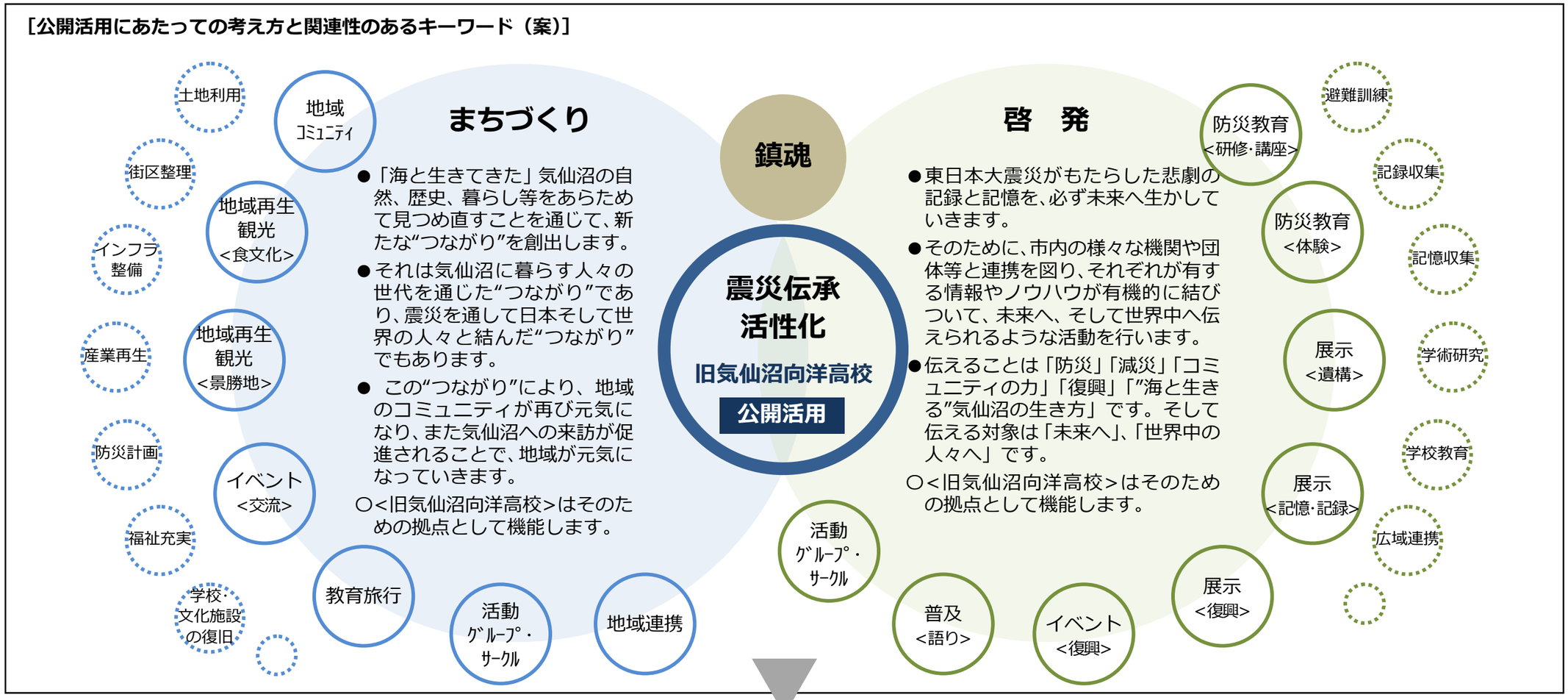
※< >は関連が想定される要素

<旧気仙沼向洋高校>：震災伝承の拠点であり、「伝える」ことを通して新たなつながりと活性化を生み出す場所

2．<旧気仙沼向洋高校>の公開活用の基本的な考え方（案）

前項をふまえると、<旧気仙沼向洋高校>には大きく「震災伝承の拠点」と「活性化拠点」としての役割を担うことが期待されると考えることができます。
これらのことから、公開活用にあたって重視すべき要素を整理し、基本的な考え方を整理します。

［公開活用にあたっての考え方と関連性のあるキーワード（案）］



基本的な考え方（案）

- <旧気仙沼向洋高校>は、気仙沼市の復興の様々な取り組みにおいて、その公開活用により、**「震災伝承」と地域の「活性化」に寄与する**ことができる。
- <旧気仙沼向洋高校>は、将来において再びの津波被害を受ける可能性が高い環境にあることをふまえ、失うことのできない資料等の収集・保存等は行わず、**展示や教育・普及活動、交流・活性化活動等を中心とした活用を図る**など、施設の立地環境をふまえた長期的な視点での検討が求められる。
- 震災に関する様々な活動が様々な機関・組織等で行われていること、また気仙沼市全体として持続的・発展的に活動を展開していくため、**市内に限らず国内外まで視野を広げ、ネットワークを構築し、柔軟な発想で活動を推進する**ことが望ましい。

3．<旧気仙沼向洋高校>の公開活用の理念と方針、求められる機能（案）

基本的な考え方を受け、〈旧気仙沼向洋高校〉の公開活用の理念を検討します。また、理念の実現に向けての方針とそのために求められる機能について整理します。
これらの内容は、保存調査の結果をふまえ、具体的なあり方についてさらに検討を行っていくこととします。

基本理念（案）

気仙沼の記憶を
未来へ、伝えよう。
世界へ、伝えよう。

<旧気仙沼向洋高校>は、東日本大震災の悲劇をその存在で以て伝える震災遺構であり、その**「公開」により、記憶の風化を防ぎ防災・減災の意識を喚起しつづける象徴**となるものです。

気仙沼は、過去において度々の津波の被害を受けた歴史を持ちますが、それでもなお、この地に暮らし、**未来においても「海と生きる」ことを心に掲げています**。大自然の脅威と恵みとともに生きることは、人類が忘れてはならない本質的なものであり、震災の伝承とともに伝えていくべきものであるといえます。そのようなことから、**<旧気仙沼向洋高校>は、東日本大震災の悲劇の記憶を内包する「気仙沼の記憶」を未来の世代へ、そして世界へ伝えるもの**であるとします。

このような視点に立ち、「気仙沼の記憶」を伝えるために、震災遺構としての「公開」とともに、さまざまな情報を伝える展示や普及等の「活用」を図っていきます。

「活用」にあたっては、「つながり」を重視します。それは悲劇の時に人々を救う**「地域の力」**、悲劇が起こった他の地域を**「励ますカ」**、世界中の被災地とつながり経験や記憶を共有することによる、より大きな**「生きるカ」**に結びついていくものです。

また、つながりを通して交流を促進し、**海の脅威とともに「恵み」についても同じように大切なものとして位置づけ、地域の活性化・復興につなげていく**こともめざすところとします。

方針（案）

基本理念（案）をふまえ<旧気仙沼向洋高校>の公開活用にあたって、下記の事項を方針とします。

●命を守るための「記憶」の伝承を行う

気仙沼市内外の関連施設と連携を図り、「悲劇を二度と繰り返さない」防災・減災の取り組みを持続的・発展的に推進する。

●記憶の伝承を通して「つながり」を創出する

「気仙沼の記憶」を未来へ、世界へ発信するために、世代のつながり、地域のつながりを再生・創出する。

また、世界における悲劇の記憶を共有のものとし、今を生きる、そして未来の人類に貢献する。

●つながりを通して再びの悲劇を防ぐとともに、復興を促進する活性化拠点とする

「気仙沼の記憶」とは、海と生きてきた人々の記憶。海の畏怖すべき力とともに、恵み、魅力についても発信する。「つながり」においてこれらの要素も含めて総合的に発信し、気仙沼市の復興につなげていく。

上記をふまえ、次の機能を果たすべく、ハード・ソフト両面からの検討を行います。

求められる機能と展開にあたって（案）
（〇求められる機能　＊要検討事項）

伝える

展示機能

〇震災遺構<旧気仙沼向洋高校>の公開。
〇「東日本大震災」の記録・証言による、記憶の紹介。
〇復興の歩みに関する紹介。
〇気仙沼市と津波－歴史と先人の教訓―に関する紹介。
〇地震・津波とそれらがもたらすものに関する紹介。
〇防災・減災―土地･建物･人―に関する紹介。　等

＊震災遺構の公開の範囲、展示及び保存の方針
＊展示空間の範囲の想定
＊展示計画（テーマ、資料、手法　等）
＊多言語対応、展示におけるユニバーサルデザイン
＊運営主体と運営方針　等

教育･普及機能

〇セミナー・研修会等の情報発信による活動。
〇体験教室・ワークショップ等、体験を通じた活動。
〇語り部や工作、紙芝居、ゲーム等、こどもにもわかりやすい楽しみながら学べる活動。　等

＊活動空間の範囲及び諸室の構成
＊活動内容をふまえた諸室機能、設備の想定
＊プログラム開発
＊市内外の関連施設等との連携体制の構築
＊運営主体と運営方針　等

まちづくり機能

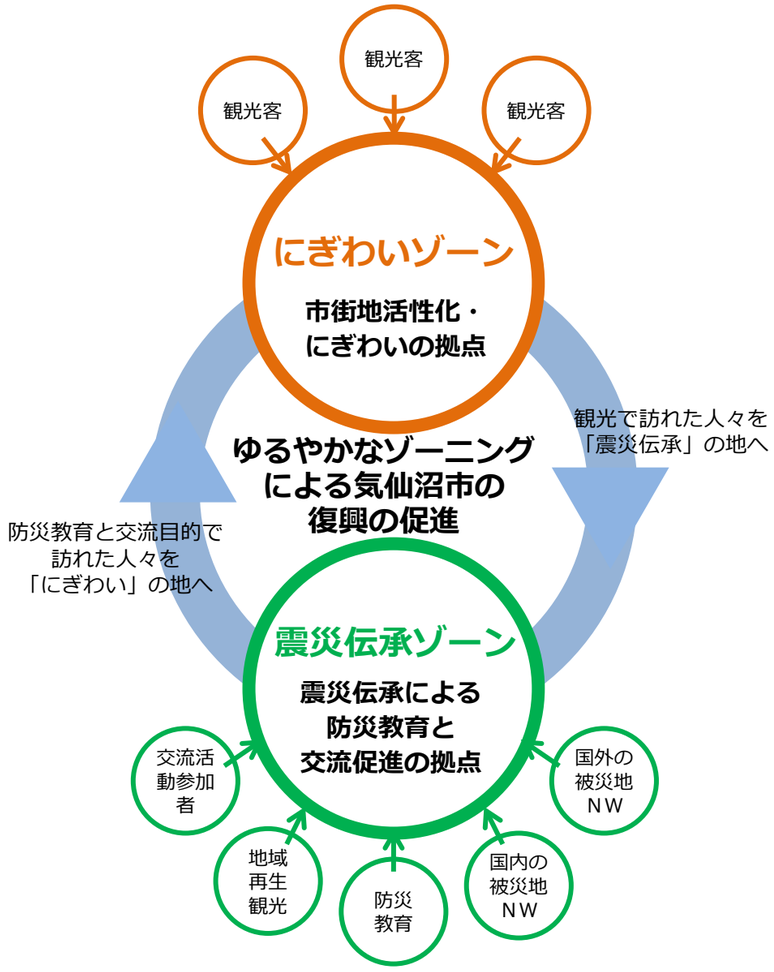
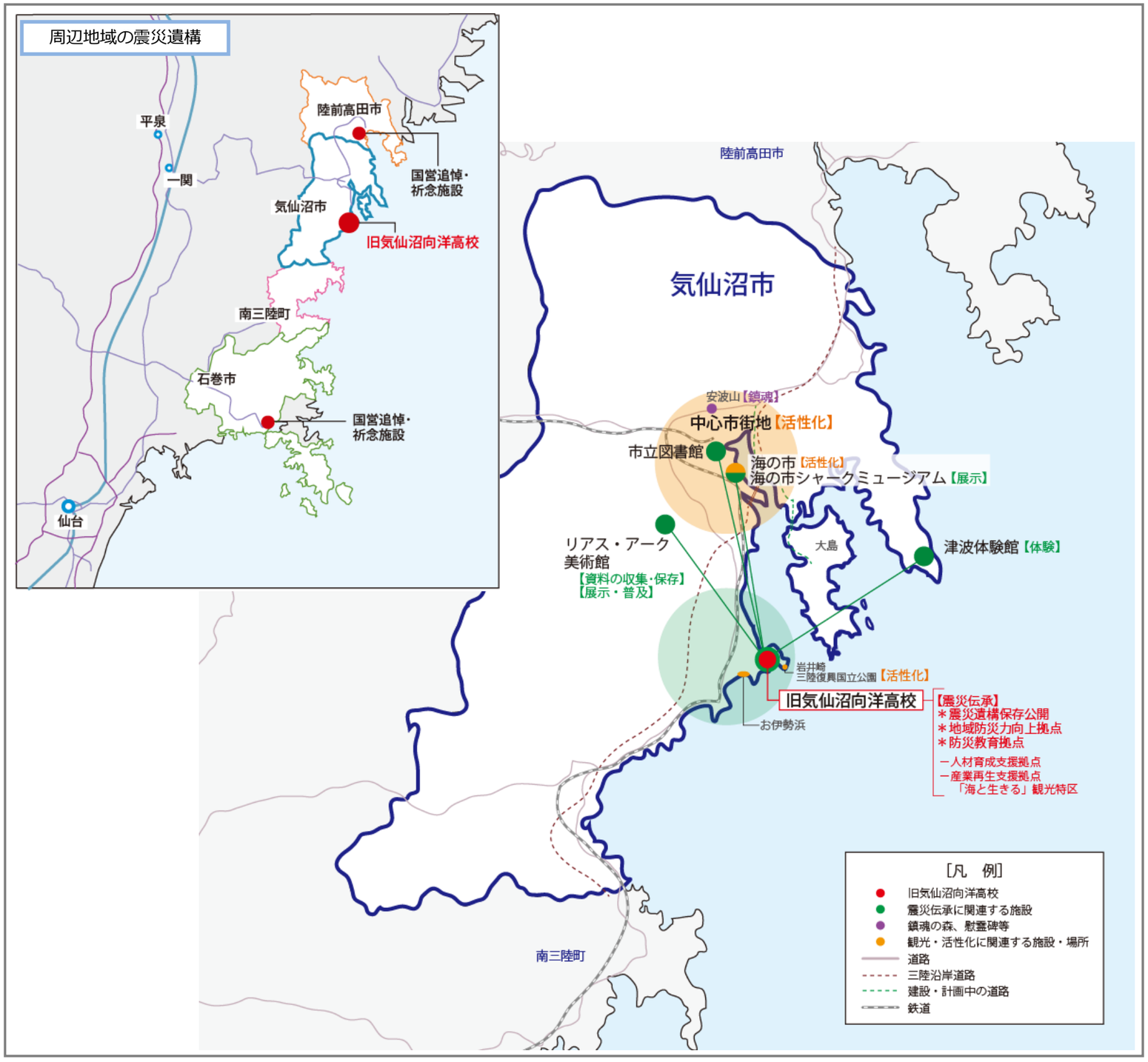
〇「海と生きるまち・気仙沼の食」の魅力の発信。
〇「海と生きるまち・気仙沼の景観」の魅力の発信。
〇地域コミュニティの活動拠点としての活用。
〇復興活動団体等の活動拠点としての活用。　等

＊活動空間の範囲及び諸室の構成
＊活動内容をふまえた諸室機能、設備の想定
＊運営主体と運営方針　等

交流促進機能

〇防災・減災に関する教育旅行のプログラム開発と受入。
〇復興イベントの企画と開催。
〇東日本大震災被災地との連携促進（情報共有、共同事業企画、人的・経験交流　等）。
〇国内外の被災地との連携促進（同上）。　等

＊プログラム開発（企画、旅行業者等との連携　等）
＊イベントの企画、実施体制構築
＊連携（ネットワーク）構築及び推進体制構築
＊運営主体と運営方針　等

4．気仙沼市における<旧気仙沼向洋高校>の位置づけの検討

<旧気仙沼向洋高校>は、その保存と公開の最大の目的である震災伝承を通して、様々な交流促進を展開していく拠点とします。
また、中心市街地は市域内外からの観光客等を受け入れるにぎわいの拠点としてさまざまな復興事業等が推進されます。
これらについて、「震災伝承ゾーン」と「にぎわいゾーン」等、ゆるやかなゾーニング分けを行い、情報発信や事業活動の展開等において結びつけを行うことで、気仙沼市の復興の取り組みの可能性をより高めていくことが可能となると考えられます。